

第72回 令和4年度 社明作文コンテスト入賞作品

大阪府推進委員会 ひまわり奨励賞

家族で考えること から始める第一歩



泉南郡熊取町立南小学校

井黒 来泉

社会を明るくする運動と言われても全くピンと来ない。この運動を私自身が全く知らなかったからだ。だからまず私は、この運動がどのようなものなのか、さらに犯罪や非行を犯した人たちが出所後に社会に出てどう生じていく動画や、社会が出所後のしゅう労を支えんする取り組みの動画を見た。そして、家族で話し合ってみた。

罪を犯した人＝悪い人と考えてしまいがちだけど、本当にみんな悪い人ばかりなのか。きつと、今までの私なら罪を犯した人の背景や、その人たちを取りまかかんきょうなどを考えずに、みんな悪い人だと言っていたと思う。でも、今の私はちがう。なぜなら、私はこの運動を知り、動画を見て心が動かされたからだ。人は様々なかんきょうの中で生きていて、その人を取りまかかんきょうや様々な社会問題が深く関わっている事を初めて知った。だから、罪を犯した人だけが悪いのではなく、もしかししたらそのかんきょうを作り出した社会にも多少の原因があつたのかもしれないと思うようになった。

出所後に社会に出て、前を向き、もう一度自分の人生をやり直そうとする人たちの目はみんな輝いていた。「もう、二度と過ちを犯さない。」と固く決意してけん命に働くすがたがあった。そのすがたを見て私のむねは熱くなった。そして、そこには前を向く彼らを支える人たちがいて、彼らを受け入れる社会があった。き業が声をあげて彼らを支えんし、未来を明るくするための取り組みをしていた。私の知らない世界がそこにあった。でも、それこそが社会を明るくする運動そのものだと感じた。

過ちを犯した人はいじよする社会を作るのではなく、こう生をして前を向いて歩いていける様に社会全体で取り組み、彼らを受け入れる、そして共に未来を明るく出来るような社会を作っていく事が大事だと感じる。そこで今、私に何が出来るのか。すぐに答えは出なかった。でも、父と母は

「その答えをすぐに出す事よりも、この運動について、社会の取り組みについて知る事から始めよう。問題に関心を持つ事は何よりも大切な事だから一緒に考えてみよう。」

と言つて家族みんなで考えた。問題を知った所ですぐに実行できる事ではないけれど、知る事で未来を変える第一歩をふみ出す事が出来ると思う。「人の出来ていない事を見つけて指てきするより、人ががらばっている事をみとめてほめてあげられたらいいね。」

これは、母がよく言う。「人に信用してもらおうと思うなら、自分がその人を信用する事から始めてごらん。」

これは、父がよく言う。「お姉ちゃん、大好き。ぎゅってして。」

これは、弟が毎日言う言葉。今まで気づかなかつたけれど、これこそが私が始められる第一歩かもしれない。母がよく言う、人をほめることは、意外とむずかしい。でも、おたがいにみとめ合い前向きな言葉をかける社会はどれほど明るくなるだろう。「がんばってるね。」の一言で、次またがんばろうと前を向ける。その一言は「あなたを見てるよ。」のサインだと思ふ。そして、父が言う「相手を信用し、人と人がつながること、どれほど犯罪は少なくなるだろう。犯罪は、こどくから生まれる事も少なくないと思う。だからこそ人が人を信用できる関係をきずき上げ、つながりを持つことが大事だと思う。そして弟が言う、ぎゅってだきしめる事で、人はどれほどうれしくなるだろう。どれほど落ち着くだろう。どれほど心が満たされるだろう。「こんなかん単な事で？」と思うかもしれないけれど、私はこれこそが社会を明るくする第一歩だと思ふ。家族を大切に、周りの人をもつて大切に、大切に出来る気持ち、そこに愛があれば、さ細な事でも社会は明るくなつていくと思う。やさしい心を持った人がふえれば犯罪は少なくなると思う。家族で考えたこの運動、私たちは今日から始めてみようと思う。

そしてもう一つ大事な事は、明るい社会を作るために一人ひとりが問題に関心をもち、理解を深める、考える事が何よりも大事な事だと思ふ。過ちを犯した過去を変えることは出来ないけれど、こう生して明るい未来を作り上げていく事はできると思ふ。それを支えることは私たちにもできると思ふ。犯罪の無い、明るい社会をみんなで作っていききたい。

明るい世界にするために



泉佐野市立末広小学校

今井 優哉

ぼくは、夏休みの宿題で、社会を明るくする運動というものがあることを、初めて知りました。作文を書くためにインターネットで調べてみると、みんなが過ごしやすい社会にするための運動であると思ひました。

過ごしやすい社会とは、どんなものなのか考えてみました。ほんざいがなく、みんなが仲良くできて、困つた人をみんなが助けてあげることができれば、過ごしやすい社会になると思ひました。

社会を明るくするために、がんばっている人はたくさんいます。たとえば、地いきの見守りをしていてくれる人たちがす。朝は「おはよう」と声をかけてくれたり、安全に通学するために見守つてくれるので、安心して学校へ行くことができす。それから、学校の先生も社会を明るくするために、がんばつてくれてます。先生は、勉強だけではなく、生活に必要なことや楽しいことを教えてくれます。ぼくたちがしょうらい困らないように教育してくれています。おまわりさんや病院の人もがらばつてくれてます。農家さんは、おいしい食べ物を作つてくれて、食べる人の体や心を元気にしてくれています。他にも、社会を明るくするためにがんばつてくれてる人が、たくさんいることに気がつきました。そんな人たちに、感謝しなくてはいいけないと思ひました。

今回の作文を書くときに、一番心にうかんだ人がいます。それは、ぼくが小学校に行く前から、横断歩道で毎日立ってかれていたおじさんです。そのおじさん

は、七十代くらいで、とても元気な人でした。小学生の見守りだけではなく、ぼくの妹が幼稚園に行く時も見守ってくれていたそうです。自転車の二人乗りをしている人を見かけたら、おりのまで注意していました。子どもたちが登校するよりも、とても早い時間から立ってくださることを、お父さんから聞きました。

けれども、ぼくが二年生の時に、病気で続けることができなくなって、おじさんを見かけなくなりました。ぼくのお母さんは、ぼくと妹が小学校を卒業するまで「お願いします。」と言っていたので、とても残念がっていました。ぼくも、おじさんにずっと立っていてほしかったです。

おじさんがいなくなって、何か月かたつたころ、お母さんがおじさんを見かけたそうです。見守りをしてくれていた時とはちがって、弱々しく見えたと言っていました。でも、その一年後、三輪の自転車に乗っているのを見かけたそうです。リハビリのために、元気に体操をしていたのを見て、ぼくはうれしくなりました。

もしも、いつかおじさんに会うことができたなら、お礼を言いたいです。今とちがって、マスクのない時だったので、笑顔いっぱいのおじさんの顔を覚えています。何年間も見守り続けてくれたことは、ぼくの町にとって、「社会を明るくする運動」だったと思います。

これからは、ぼくも社会を明るくしてもらうだけではなく、明るくするために自分から動いていきたいです。「社会を明るくする運動」をむずかしく考えずに、自分ができることからやってみようと思います。まずは、自分のためだけではなく、人の役に立つために動きたいです。

明るい社会になるために



泉南郡熊取町立北小学校

坂本 めい

私が考える「明るい社会」とは、皆が明るい心を持つことが出来る、平和な世界のことです。

なぜそう考えたのかというと、現在の世界の状況がきっかけです。最近のニュースでは、犯罪の事件を多く聞くようになりました。

例えば、虐待。親が子供に、子供が親に、暴力を振るうという事件を多く耳にしました。そのようなニュースに出てくる人たちは、心が暗くなっていたのかなと悲しい気持ちになります。

普段、私の身の回りでは、事件はあまりないのですが、犯罪の事をニュースで聞くと、事件にあった人は大丈夫かなと心配になります。

皆が明るい心を持つには、どうすれば良いのか、考えてみました。

心明るくする方法は、沢山あります。例えば、思いやる心を持つ。人を思いやるだけで、社会は明るくすると思えます。

他にも、人の悪口を言わない、綺麗な心を持つ。その意識だけで、社会は明るくなると思えます。

では、普段の生活で、自分達に出来ることは何でしょうか。私は、「自分や人を大切にすること」や「皆の気持ちを考えること」が大切だと思えます。それを考えたとき、「命は大切だ」という、学校の授業で教えてもらったことを思い出しました。犯罪をしてしまった人にも必ず大切な命があるということです。ただ、やってしまったことは元に戻らないということも

心に入れておくということも大切だと思えます。なぜなら、自分がやってしまった犯罪は、自分の家族や、周りの人を悲しませることになるし、親や子供に暴力を振るうということは、もう、後に戻ることができなくなってしまうことがあるからです。そうなったときに初めて後悔して、ずっと後悔し続けると思えます。そう後悔しないためにも、心明るくすることが必要です。

皆の心は、一人一人違います。幸せ、嬉しい、楽しいという心もあれば、悲しい、迷い、不快という心もあります。この沢山の気持ちを皆は心にもっていて、誰にも見ることが出来ません。だからこそ、不安な気持ちにたえられないときは、友達や大人に相談することが大切です。相談することで、心が晴れ、犯罪を防ぐことが出来ると思います。相談出来る人が周りにいることを知り、自分もそんな存在でありたいと思えます。

また、私は、一人一人の違う心と向き合っていく、お互いに認め合い、社会を明るくすることが出来る大人になりたいと思えます。

私も皆も、大切に守られてきた大切な命です。

家族を大切に思うように、周りの人のことも、同じように、大切に思い、傷つけることの無いように過ごしていきたいと思えます。

心明るくするということは、人の命、そして、自分の命を大切にすることです。

皆が過ごす毎日が、平和であることを願います。

居場所をつくること



泉南郡熊取町立熊取南中学校

鈴木 心晴

「社明大会で演奏します。」

吹奏楽部の顧問の先生に言われた時、「しゃめい大会？」と頭の中で繰り返した。聞いたこともなく漢字さえ分からなかった。

調べると社明大会は、犯罪や非行をした人の更生を皆で支え、新たな犯罪や非行を防止していくという運動のイベントだった。

罪を犯したら、刑務所や少年院に行くことがあることはもちろん知っていた。執行猶予という言葉も知っていた。でもその人たちが、その後社会でどうやって生活しているのか、ということは考えたことがなかった。

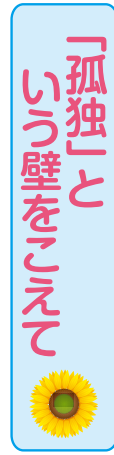
今回、初めて色々調べて、保護司さんという仕事があることを知った。犯罪をした人の更生を助け支えてくれる人たちだ。でも保護司さんだけで支えきれないだろうと思う。社会で更生しようとしている人たちは、たくさんの人たちと関わるからだ。皆が支え合っていく必要があると思う。ではどうやって？

私は友達関係がうまくいかなかった時、ほかの友達や家族、見守ってくれた先生がいてくれたことに救われた。その時感じたのは居場所があることのありがたさだ。私が私のままでいることを受け入れてくれる場所。私を大切だと思ってくれている場所。その場所が多ければ多いほど、人は救われると思う。

私も誰かの居場所になりたい。誰かがホッと居場所でありたい。そのためには相手のことや、気持ちを伝える必要があると思う。そしてそのためには信頼関係

も必要だ。人の思いはそれぞれで、私はその人のためにと思っても、実は相手の思いと違うこともあると思う。まずは相手のことに興味を持つこと、相手の気持ちに寄り添うことから始めたい。

社明大会の演奏。そうやって人を支えようとしている人がたくさん集まっておられた。私はその人たちの応援歌になるよう、心を込めて演奏した。届いてほしいいな。



泉南郡田尻町立中学校
井上 琴音

最近ニュースを見るたび目にするのは、暴力や詐欺、自動車のあおり運転などの様々な犯罪です。小学校1学年の時に見たニュースで「腹が立つから殴った。」と犯人が供述したニュースを見て、なぜそんな事をしたのに刑務所に二、三年入るだけで出てこれるのか。正直に言うともう一年出てこなくていいのに。と思っていました。だけど犯罪や非行に手を染めてしまった人でも、やりたくてやったわけではないと最近思えるようになりました。なぜそう言えるのか。私も実は犯罪や非行に手を染めてしまった人の気持ちを経験したことがあるからです。

それは私が小学校高学年の時、親友とささいな事でケンカになったのが始まりでした。ケンカをした翌日私は、いつものように学校に行きよく喋っていた友達に「おはよー。」と私が挨拶をしました。でも、さも私がいけないかのように通り返していったのです。私は聞こえていなかっただろうと思いましたが、その時はあまり気にしていませんでした。ですがその行動はだんだんエスカレートしていきま

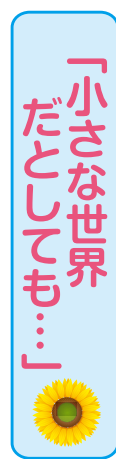
根も葉もないわざを学年中に親友が流し、そのせいで毎日いろんな人から悪口を言われ私はだんだん孤立していききました。私がなにより悲しかったのは「孤独」です。親友が裏切り、仲が良かった友達も離れていき私は暗い闇の中一人ぼっちでした。誰も信頼できず憎しみ、悲しみ、怒りのいろんな感情で自分が爆発しそうでした。そんな時同じクラスの子が移動教室の時「一緒に移動しよう。」という優しく声をかけてくれました。彼女は私の話を聞くだけでなく、どんなに他の人が私に対して悪口を言ったとしても、いつも私の味方でいてくれました。彼女が、あの時私に声をかけてくれなかったら、私は今頃きつと犯罪や非行に走りだしていただと思っています。

なぜ人は犯罪や非行に手を染めてしまうのか。私は孤独や寂しさがあるからだと思います。誰か私の存在を認めてほしい。かまってくれない。話を聞いてほしい。その心のSOSに気づいてあげないと人は犯罪や非行に走りだしてしまうのです。たぶんあのころの私は誰でもいいから苦しみ、つらさを分かってくれなかったんだろうと思います。

私は犯罪や非行なんて全く自分に関係ないものだと思っていました。でも人間は弱い生き物です。何か悲しいこと、つらいことがあるとやはり人に、傷つけるような言動をしてしまいます。だけど、そこからどう行動するかで未来は大きく変わってきます。「ごめんね。」の一言で傷つく人は減り「孤独」という壁をなくせませう。私は「孤独」という壁を作り闇の中さまよっていた時があります。一人ぼっちで後ろを振り向いても誰もいない。そんな時誰かがすつと手を差し伸べてくれるだけで光が差しよみ、少しずつ前を向いて歩いていけるようになります。私はどんな状況になっても「希望」これだけは捨てないでほしいです。今、暴力をふるわれたり無視されたりしている人、犯罪や非行になんて走り出さないでほしい。き

つとあなたのことを心配してくれている人、気にかけてくれていてくれる人が必ずいます。「自分は孤独だ。」なんて思わないでほしい。きつと誰かがあなたの話を耳を傾け味方になってくれます。私はこの手で犯罪や非行を無くすことはできません。ですが周りの人が困っている時、話を聞いてあげるだけでもその人は救われ犯罪や非行を防ぐことができます。

最後に一つ伝えておきたいことがあります。犯罪や非行をすることは決して許されることではありません。ですが、犯罪や非行をしてしまった人も私達と同じ人間です。犯罪や非行をしてしまった人を一方的にネットでもたたいたりするのでなく、服役を終えて出てきた時に「おかえり。」と言える社会、「孤独」という壁を作らず皆と一緒に生きていく、そんな温かい社会。これこそが明るい社会であり、私達が目指さなければならぬ社会のあり方だろうと思います。



泉南郡熊取町立熊取北中学校
西 結女

私は小学生の頃、学校は「小さな社会」ということを教えてもらいました。小さな社会である学校は、「社会」とは比べものにならないほど規模の小さいものだと思います。そんな学校で、いじめが起きます。そんな状況で、「社会」から犯罪がなくなるといことは難しいと思います。小さな社会でのいじめは社会の犯罪と等しくなると思います。もし、小さな社会である学校からいじめがなくなれば、社会でも犯罪が少なくなると私は考えました。学校でいじめがなくなり、思いやりであふれた人が集まって社会づく

りをしていけば、犯罪は少なくなると思っています。

では、いじめをなくすには何が必要でしょうか。私が必要だと思うのは、人権について学ぶことです。小学校の時は、学校での人権学習は内容がおもしろく、苦手でした。でも、中学生になっていじめの実態や構図などについて学んで、人権学習の大切さに気付くことができました。特に、実際にいじめを経験した人の話を聞くことで、どんなにいじめがつかいものか、ひどいものなのかを知ることができました。いじめなどのしてはいけないことを理解するのが大切ですが、行動できなければ意味がありません。一人一人に持っている人に声をかけたり、まわりになっている人の気持ちを考えたり、そんなちよつとした気持ちを行動にうつすことが小さな社会を少しずつ変えていくことにつながると思います。小さな社会でできることは実際の社会に出てからもできるはずで、小さな心がけを一人一人がすることです。大きくなり、社会を変えていけると思います。それぞれの学校で一人一人が社会に出る一歩手前の段階として、知識を身につけ、成長していくことが大切なのです。小さな社会だからといって、何をしても許されるわけではないので、これから社会に向かって一歩ずつ進んでいくということをお忘れしないことも大切だと思います。

でも、時にはまちがったことをしてしまうことがあるかもしれません。そんな時は、まちがったあとで反省しているかどうかが大切だと思います。たとえ、まちがった人がいても立ち直ろうとしていいるなら、その人を受け入れることが大切だと思います。まちがったことから学習し、次に繋げていく。そんな人が集まれば社会は明るくなると思います。

一人一人の小さな社会での小さな心がけ、小さな行動が明るい社会へ一歩ずつ近づくためのエネルギーになるはずで